



本多 里奈

自然の博物館では 6 月 29 日（土）から 10 月 14 日（月・祝）まで企画展「外来生物 in 埼玉！」を開催しています。外来生物の基本や外来生物の種類とその特徴、埼玉県における外来生物の問題とそれに対する取組について、豊富な実物資料を用いて紹介しています。

## 第 1 章 外来生物ってな～に？

展示の導入でもある第 1 章では、外来生物の基本である定義や影響、関係する法律などを紹介しています。

外来生物<sup>\*</sup>とは、人間の活動によって本来の生息地とは異なる場所に連れてこられた生き物のことを指します。ペットや観賞用、農作物として意図的に連れてこられたものだけでなく、積荷などに紛れて意図せず連れてきてしまったものもいます。また、外来生物と聞くと、海外からやってきた生物というイメージがあるかもしれませんが、日本国内の移動であっても本来の生息地ではない場所に連れてこられた生物は全て外来生物です。

現在、日本には約 2,000 種の外来生物がいますと言われています。その多くは移入先の環境に適応できず、個体数の増加や定着には至りませんが、中には数を増やして私たちの生活や地域の生態系に大きな影響を及ぼすものがあります。その中でも特に影響が大きく、法律で取扱いが定められているのが特定外来生物です。特定外来生物は生きた状態での輸入、運搬、譲渡、飼育、遺棄、放出などが禁止されており、個人だと最大 3 年以下の懲役もしくは 300 万円以下の罰金、法人だと最大

1 億円以下の罰金が科せられます。知らないうちに被害を広め、法を犯さないためにも、外来生物に対する正しい知識が必要です。



図. 外来生物のクラス分け。外来生物の中から、特定外来生物や条件付外来生物など法律で取扱いが定められている種が指定されている。

<sup>\*</sup>外来生物法では、「外来生物」は国外由来のものを指し、「外来種」は国内外問わず本来の生息地域とは違う地域に連れてこられたものを指しますが、本企画展では表記を「外来生物」で統一しています。

## 第 2 章 集合！外来生物ずかん

第 2 章では、動物から植物まで様々な分類群の外来生物について、豊富な実物資料を充実した解説と共に展示しています。解説の中では、指定されているもの（特定外来生物など）、生態系や人への影響をアイコンで説明し、直感的にどういった外来生物なのかが分かるよう工夫を施しました。見て楽しい、読んで学べる内容となっています。展示物としては、アライグマやヒアリ、オオキンケイギクなどの有名な種や、クビアカツヤカミキリなど最近増え始めて問題となっている種、ニホンヤモリ、ドバト、モンシロチョウ、オカダシロツメクサ、ゲンゲ（レンゲ）など

の非常に身近な種など、様々な外来生物を紹介しています。中には、埼玉県の県民の鳥で県のマスコットキャラクター「コバトン」「さいたまっち」のモデルにもなっているシラコバトも登場しています。来館者からは「これって外来生物だったんだ！」などの驚きの声が多く上がっています。



写真1. 外来生物ニホンヤモリ。古文書の調査と遺伝子の解析から、約3,000年前に中国から九州に渡来した外来生物であることが2022年に判明した。



写真2. 外来生物シロツメクサ（左）とその花かんむり（右）。花かんむりを被っているコバトン（ぬいぐるみ）のモチーフである、シラコバトも外来生物。

### 第3章 埼玉県と外来生物のいま

外来生物による被害は日本各地で確認されていますが、埼玉県も例外ではありません。特に近年はクビアカツヤカミキリやアライグマによる被害が顕著化しています。これらの外来生物に対応するために、県や自治体、様々な組織によって調査研究や被害対策が行われています。第3章では、埼玉県が直面している外来生物被害と被害対策の取組を紹介しています。

また、この章では「見比べてみよう！」というコーナーを設けています。埼玉県で被害を出している外来生物の中には、在来生物に見た目がそっくりな種がいます。例えば、外来生物のアライグマと在来生物のタヌキは、混同されがちです。こ

のコーナーでは、外来生物と在来生物の剥製や標本を見比べて、見た目の違いを知ることができます。ちょっとした間違い探し感覚で、年齢問わず多くの来館者にお楽しみいただいています。

### 企画展リーフレット ミニミニ！外来生物ずかん

今回、企画展のリーフレットとして、「ミニミニ！外来生物ずかん」を作成しました。企画展の第2章で紹介している外来生物の中から数種をピックアップし、大きな写真とより子供向けにした解説を載せて図鑑のようなデザインにしています。このA4判のリーフレット最大の特徴は、ほんの少し工作をするとA7判の小さな冊子になることです。リバーシブルになっており、裏表で動物と植物の両方を楽しむことができます。展示室内でもお持ち帰りいただいた後でも、どこでも使えるように作成しました。



写真3. ミニミニ！外来生物ずかん。1枚で動物と植物の両方を楽しむことができる。裏表紙には展示で使用しているアイコンの説明があり、観覧時の補助資料としても使える。

### おわりに

外来生物という言葉そのものは、テレビやSNSでよく見かけるようになってきました。しかし、センセーショナルな取り上げられ方も少なくないため、外来生物は「テレビの向こうの怖いやつ」になりがちです。この展示を通して、外来生物は非常に身近な生き物であること、外来生物によって置かれている状況が違うこと、そして外来生物との正しい付き合い方を知っていただければ幸いです。

(ほんだ りな・学芸員)